

## 高輝度レーザープロジェクター / 液晶ディスプレイ導入事例

**コクヨ株式会社様**

広い空間を活かして、オフィスの可能性を広げる200型のスクリーンとプロジェクターを設置。  
テレワークが進む中でこれからのオフィスに必要とされる液晶ディスプレイでの情報表示。

## 導入の映像デバイス



ファニチャー事業本部  
ワークスタイルイノベーション部  
グループリーダー  
ワークスタイルコンサルタント  
伊藤 毅 氏



情報システム部  
ワークスタイル  
ソリューションユニット  
小野寺 智也 氏



## ■ プロジェクター

高輝度レーザー光源液晶プロジェクター

NP-PA1004UL-BJL ×2台      NP-P605ULJL ×2台

液晶プロジェクター      NP-ME382UJL ×1台

超短焦点液晶プロジェクター      NP-UM383WLJL ×1台

## ■ インタラクティブホワイトボード Brain Board®

LCD-CB752(75型) ×14台      LCD-CB652(65型) ×5台

## ■ 大画面液晶ディスプレイ

LCD-E657Q(65型) ×17台      LCD-C651Q(65型) ×1台

LCD-C551(55型) ×5台      LCD-V554Q(55型) ×6台

LCD-E507Q(50型) ×3台      LCD-E557Q(55型) ×11台

LCD-E327(32型) ×2台      LCD-E437Q(43型) ×46台

## ■ 3辺狭額縁IPSワイド液晶ディスプレイ

LCD-E241N-BK(24型) ×20台



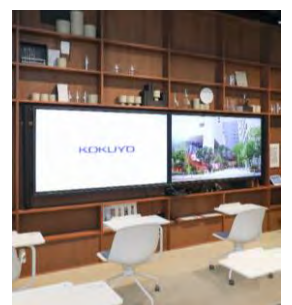
開けたフリースペースに設置された200型のスクリーンにNP-PA1004UL-BJLから投写



天井り設置の  
NP-PA1004UL-BJL



壁掛設置の  
Brain Board® LCD-CB752



会議室に2台並べられた  
BrainBoard® LCD-CB752

## 事例のポイント

## ■ 課題背景

- ・新施設のコンセプト「みんなのワーク&ライフ開放区」にそって、空間を活かした、ディスプレイや映像の使い方をしたい。
- ・お客様にも見ていただけるワークスペースとして、さまざまな場所で必要な情報を表示したい。

## ■ 成果

- ・新施設「THE CAMPUS」に高輝度のプロジェクターを2台設置したことにより、情報発信の場としての活用が可能に。
- ・フロアごとに設置したディスプレイのサイズを大きくしたことで、より見やすい情報表示環境に。
- ・タッチパネルで直感的に操作しやすいBrain Board® を会議室に設置、リアルな会議やリモート会議で利用。

**KOKUYO**

## コクヨ株式会社

所在地： 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

THE CAMPUS所在地:

東京都港区港南1丁目8番35号

事業概要： 1905年創業。  
文具の製造・販売や、オフィス家具の  
製造・販売、空間デザイン・コンサルテ  
ーションなどを行っている。

U R L: <https://www.kokuyo.co.jp/>

# コクヨ株式会社様

施設内での情報共有と用途に合わせて、さまざまなサイズのサイネージを活用

## 導入の背景や課題

### ■ 新たなコンセプトのワークスペースに映像機器を設置して、より利用の幅を広げたい

文房具やオフィス家具の製造販売、空間デザイン等を行っているコクヨでは、2021年2月に自社ビルをリニューアルし、働き方の実験場「THE CAMPUS」としてオープンしました。「プロジェクトとしては2017年頃からスタートしています。自社のオフィスに加えて、お客様や地域の皆さまにご利用いただけるエリアを併設し、いろいろな人と交流することで、新しいアイデアやイノベーションを生み出す実験・実践の場となることを目指しています」(小野寺智也氏)  
コクヨ製品の体験や購入ができるほか、日替わり

のキッチンカーでランチの購入や、木陰のベンチで休憩もできる、開放されたスポットとなっています。「大切にしていることのひとつが、ライブオフィスという考え方です。コクヨ社員が働いているオフィスをお客様に見ていただくことで、要望を引き出したり、新たな使い方やニーズを掘り起こしたりするために、社員が自らさまざまなチャレンジをしてその過程で得られたことを提案に生かしていくというのが、大事なテーマになっています。働く人それぞれの仕事内容に合わせて、最もパフォーマンスが高くなるように場所を選べること、この点がはつき

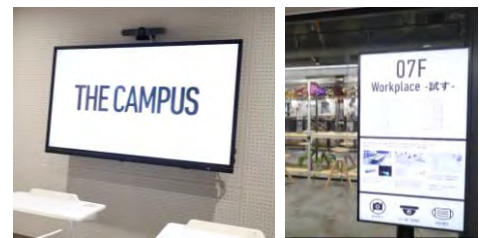
りしたオフィスにしたいと考えました」(伊藤毅氏)  
このコクヨの新しいオフィスにおいて、重要な要素として伊藤氏が語るのが、働く場所や時間を自由に選択できる働き方(Activity Based Working: アクティビティ・ベースド・ワーキング、以下ABW)です。「ABWを導入している企業も徐々に増えてきています。そうした中で、オフィスのICTの設定において、サイネージは欠かせない要素になると考えています」(伊藤氏)

## 選択のポイント

### ■ コンセプトに合わせたモデルを施設各所に配置

今回のリニューアルに合わせて、コクヨでは、THE CAMPUS各所に数多くのデジタルサイネージを設置しました。2020年9月には各ディスプレイを選定し、リニューアル工事の進捗に沿って導入を進めてきました。「ショールームで実機を確認することで、カタログでは伝わりにくい明るさなども実感ができて、いいセレクトができたと思います」(小野寺氏)  
「今回の導入スケジュールでは、コロナ禍における物流の不安定さも懸念事項でした。さまざまなメーカーに多種多様な発注をしましたが、海外からの部品調達や物流に影響が出ているメーカーもありました。そうした中でも、納期通りに数を揃えていただけたので、スムーズに導入が進められました」(伊藤氏)  
機器選定においては、大きさが重視されました。43型や55型、また65型など、従来よりもサイズアップさせることで見やすさも向上しています。

「さまざまな場所にディスプレイを設置することにフォーカスしました。テレワークも進んでいる今、仕事をする場所として、オフィスならではの機能は何かということを考えました。その一つが、情報を表示するデジタルサイネージです。自宅であれば、大勢が情報を見るデジタルサイネージは、必要なものではありません。他のディスプレイやインタラクティブボードについても、オフィスだからこそ必要とされる機能に焦点を当てて、導入するものを検討しました」(伊藤氏)  
会議室にはインタラクティブホワイトボードを導入しました。集まるとの打ち合わせのほか、オンライン会議などでも利用されています。「選定のポイントは操作感です。さらに可動式にすることにより、この大きさでも場所を選ばずに自由に使えるということで選びました」(伊藤氏)。タッチパネルでの操作も直感的に行えて使いやすくと、利用者からも好評だそうです。



各所に設置されたBrain Board®とディスプレイ

## 導入後の成果

### ■ 地域に開かれた施設をより活用するためのプロジェクター

各フロアに設置した55型のサイネージには、見学者に向けたフロア説明を出したり、イベント時には動画を表示したりといった活用がされています。また、「THE CAMPUS」内には、高輝度プロジェクターを2台並べて設置。利用時には、天井に設置された200型のスクリーンを使います。そこは、社内のワークラウンジとしても利用されていますが、イベント時には一般開放もされるため、プロジェクターも、社内外のイベントなどで活用されています。「今後はこの画面を通じて、コクヨがどんなことをやっているのか、新しい商品やサービスについてなど、さまざまな情報発信をしていくきっかけになるといいなと、強く思っています。この場所を作るに際して、ここでなければできないことをずっと考えてきました。天井高が3メートルくらいないと、200インチは設置できないのでこの場所でプロジェクターを使って、人が

集まるきっかけを作ればいいなと思います」(伊藤氏)



200型の大型スクリーンに映像を投写



明るく大画面を投写する高輝度レーザー光源液晶プロジェクター

お問い合わせは、下記へ  
NEC プラットフォームソリューション事業部  
〒211-8666 神奈川県川崎市中原区下沼部1753  
URL: <http://jpn.nec.com/d/signage/>

2021年9月現在